

想定した経営類型

個別経営 I

1. 技術体系の特徴

経営類型	家族労働力	品目・栽培型及び規模		経営・技術の特徴
個別経営 I	人 2	a		(1)基盤整備地区における個別経営による営農 (2)作業の一部は委託
		水稻 400 小麦(長崎W2号) 500 二条大麦 500 大豆 600 合計 2000	経営耕地面積 水田10ha (自作地4ha,借入地6ha)	
経営目標	1 農業総収入	21,975 千円	4 1日当たり農業所得	44,053 円
	2 農業経営費	14,540 千円	5 1人当たり年間労働時間	675 時間
	3 農業所得	7,435 千円		

2. 資本装備と減価償却費

	種類・規模	数量	型式・構造・能力	所 割 有 合	取得価格	耐用 年 数	年間 償却額
					千円	年	千円
建物・施設	機械倉庫	1	軽量鉄骨 120㎡	1	11,341	24	473
	計				11,341		473
農機具	トラクター	1	41PS(直進、キャビン仕様)	1	5,504	7	393
	サブソイラー	1		1	349	7	25
	ロータリー	1	作業幅170cm	1	533	7	38
	代かきハロー	1	作業幅340cm	1	767	7	55
	ブロードキャスト	1	ホッパ容量200L	1	319	7	23
	中耕ロータリー	1		1	514	7	37
	麦踏施肥	1		1	514	7	37
	施肥播種機	1		1	387	7	28
	育苗用播種機	1	200枚/時間	1	276	7	20
	田植機	1	5条(高密度播種 施肥)	1	1,754	7	125
	自脱型コンバイン	1	4条刈り 48PS	1	6,375	7	455
	トラック	1	2トン	1	3,756	5	376
	溝堀機	1		1	558	7	40
	ブームスプレーヤー	1	500Lタンク キャビン仕様	0.2	1,239	7	88
	普通型コンバイン	1	刈幅1535mm キャビン仕様 40PS	0.2	1,473	7	105
背負式動力散粉機	2	タンク容量30リットル	1	110	7	8	
草刈り機	2	背負式	1	50	7	7	
	計				24,479		1,859

3. 技術体系

3-1. 技術体系(水稻)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業技術				技術の重要事項	
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		使用資材
品種の選定	①種子注文				0.00	0.00	種籾(4kg)	種子更新に努める。
種子の予措	①比重選 ②種子消毒 ③浸種 ④催芽	5中 5中 5中～下 5下		1	0.20	0.20	食塩 種子消毒剤	『県病害虫防除基準』参照種籾4kg に対し18%程度を目安に、1日1回 水を取りかえる。 催芽はハト胸状態までとする。
育苗	①床土準備 ②播種 ③緑化 ④硬化 ⑤灌水他 ⑥箱施薬	5下 6上 6中 5下～6中 移植前	播種機	2	1.50	3.00	育苗箱 稚苗:10	PH4.5～5.5調整の市販品を使用。 昼間の高温、夜間の低温に注意 し、夕方の灌水は避ける。 高密度播種での試算
施肥	①土壤改良資 材施用	6上	トラクター ブロードキャスト	2	0.10	0.20	土壤改良資 材	施肥基準参照
耕起・整地	①耕起	6上	トラクター ロータリー	1	0.45	0.45		表収穫後できるだけ早く実施する。
	①代掻き (荒代)	6上	トラクター 代かきハロー	1	0.40	0.40		浅水にして麦わらを土中に埋込み、 田面の均平を図る
	②代掻き (植代)	6中	トラクター 代かきハロー	1	0.40	0.40		
移植・施肥・除草	①田植え	6中	田植機 (側条施肥)	2	0.50	1.00		緩効性肥料を側条施肥 移植同時施薬(除草剤)
病害虫防除	①農薬散布	8上			0.00	0.00	農薬	無人ヘリ・ドローンへの委託防除
	②農薬散布	8下			0.00	0.00	農薬	
	③農薬散布	9上			0.00	0.00	農薬	
管理(水・畦畔)	①間断灌水 ②中干し ③落水 ④畦草刈	7上～9下 7下～8上 9下	トラック 草刈り機	1	6.00	6.00		高温時は掛流し灌水とする 目標茎数8割程度で実施。 早期落水防止。
収穫	①刈取り	10上	自脱型コンバイン	1	0.67	0.67		適期刈取。生籾長時間放置禁止。 稲わら全量土壌還元又は堆肥化促 進。
	②運搬		トラック	1	0.67	0.67		
乾燥・調製	①共乾施設	10上			0.00	0.00		共同乾燥施設利用
計					10.89	12.99		

3-2. 技術体系(麦類)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業技術				技術の重要事項	
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		使用資材
品種の選定	①種子注文				0.00	0.00	種子(8kg)	奨励品種から選定する。 毎年種子更新に努める。
種子の予措	①種子消毒	10下~11上		2	0.1	0.20	種子粉衣剤	『県病害虫防除基準』参照
排水対策	①弾丸暗渠(排水溝の設置)	10中~下	トラクター サブソイラー	1	0.3	0.30		前作終了後、極力早く土を乾かす。 弾丸暗渠は2m間隔とする。
耕起・整地	①土壤改良剤散布	10下	ブロードキャスト	2	0.1	0.20	苦土石灰	PH6.0~6.5とする
	②耕起・整地	11上	トラクター ロータリー	1	0.45	0.45		
施肥・播種	①施肥・播種	11中~下	施肥播種機	1	0.45	0.45	種子 化成肥料	基肥 一工程による播種を検討
除草	①初期除草剤散布	11下	ブームスプレーヤー	1	0.2	0.20	除草剤	『県病害虫防除基準』参照
	②中期除草剤散布	2中	ブームスプレーヤー	1	0.2	0.20	除草剤	
	③後期除草剤散布	3中	ブームスプレーヤー	1	0.2	0.20	除草剤	
麦踏	①踏圧	12下	麦踏施肥機	1	0.2	0.20		
	②踏圧施肥	1上	麦踏施肥機	1	0.2	0.20	化成肥料	分けつ肥
	③踏圧施肥	2上	麦踏施肥機	1	0.2	0.20	化成肥料	穂肥
中耕	①中耕・土入れ	1上	トラクター 中耕ロータリー	1	0.2	0.20		最終的な明渠の設置を兼ねて実施する。
	①中耕・土入れ	3上	トラクター 中耕ロータリー	1	0.2	0.20		
病害虫防除	①農薬散布(1回目)	4上	ブームスプレーヤー	1	0.2	0.20	農薬	『県病害虫防除基準』参照 赤カビ病防除
	②農薬散布(2回目)	4中	ブームスプレーヤー	1	0.2	0.20	農薬	
施肥	②施肥	4中	動力散粉機	1	0.25	0.25	化成肥料	実肥(長崎W2号のみ)
収穫	①刈取り	5下	コンバイン	1	0.5	0.50		出穂後45~50日を目安とする。 小麦は早刈りすると品質が落ちるので刈取期に注意する。 大麦は収穫適期は全体の穂が90度に湾曲したときが目安。
	①運搬	5下	トラック	1	0.5	0.50		共同乾燥施設鉄コンテナ利用
乾燥・調製	①共乾施設	5下~6上	委託		0.00	0.00		共同乾燥施設利用
計					4.65	4.85		

3-3. 技術体系(秋大豆)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業技術					技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間	使用資材	
排水対策	①排水対策	6下	サブソイラー	1		0.5		
種子の予措	①種子消毒	7上		2	0.1	0.2	種子粉衣剤	『県病害虫防除基準』参照
土壌改良剤散布	①土壌改良剤散布	7上	ブロードキャスト	2	0.1	0.2	苦土石灰	県施肥基準参照
除草	①除草剤散布	7上～中	ブームスプレーヤー	1	0.2	0.2	除草剤	非選択性除草剤を使用
施肥・播種	①施肥・播種	7中	施肥播種機	2	0.45	0.9	種子化成肥料	梅雨の晴れ間に播種できるように一工程播種を検討する
除草	②除草剤散布	7中	ブームスプレーヤー	1	0.2	0.2	除草剤	『県病害虫防除基準』参照 残草が多いときは後期剤を施用する。
中耕	①中耕	7下	中耕ロータリートラクター	1	0.35	0.4		子葉が土で覆われる程度
	②中耕	8上	中耕ロータリートラクター	1	0.35	0.4		初生葉が土で覆われる程度
病害虫防除	①農薬散布(1回目)	8上	ブームスプレーヤー	1	0.2	0.2	農薬	『県病害虫防除基準』参照 フェロモントラップの設置により発生状況を把握し適期防除に努める。
	②農薬散布(2回目)	8中	ブームスプレーヤー	1	0.2	0.2	農薬	
	③農薬散布(3回目)	9中	ブームスプレーヤー	1	0.2	0.2	農薬	
収穫	①刈取り	11上～中	普通型コンバイン	1	0.7	0.7		カラムシ被害株や雑草等は汚損粒の発生の原因になるので除去する。
	①運搬	11上～中	トラック	1	0.7	0.7		共同乾燥施設のコンテナレンタル
乾燥・調製	①共乾施設	11上～中	委託			0.0		共同乾燥施設利用
計					3.75	4.9		

